

## 研究

### 津久見湾南岸の地域調査(二)

#### ―主として四浦地区―

矢野 彌生ひさお

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

一、自然的基礎

(一) 面積

(二) 古い地層と海岸地形

二、人口

(一) 総人口の推移

減少続く 平成二十二年(二〇一〇)の四浦地区の人口

人 口 は八〇三人で非常に少ない。

今、四浦地区の明治以降の総人口をみると、第一表第一

図の通りである。

明治二十五年(一八九二)、四一八一人を数え、大正七

年(一九一八)、四七五〇人に達するまで多少の増減はあ  
るが増加している。

大正九年(一九二〇)には、第一回国勢調査が実施され、  
大正七年の四七五〇人に比較して、三七八五人と激減し  
ていることが分かる。

これは人口の実際の減少ではなく、現住人口調査と近  
代的第一回国勢調査との調査方法の差異によるものであ  
る。すなわち、第一回国勢調査以前の人口調査は役場の戸  
籍簿によるもので、他地域への出稼ぎ者や県外転出でも、  
いちいち届け出ない者が多かったことを示すもので、人  
口が過大に推定されていたからである。

大正九年以降、昭和十五年(一九四〇)までは人口の増  
減をくりかえしているが、第二次大戦後の昭和二十二年  
(一九四七)には四五九六人。同二十三年(一九四八)四  
六二五人。同二十五年(一九五〇)四五二三人と増加して  
いることがわかる。

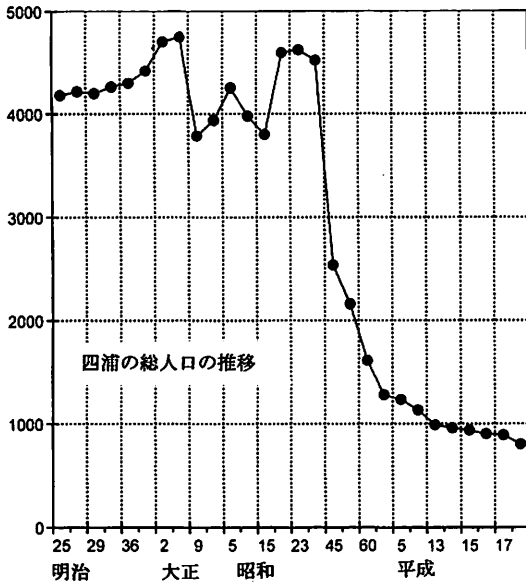
これは、敗戦によって復員者や引揚者、離都向村者の流  
入やベビーブームによるところが大きいのではないかと  
推察される。

第一表 四浦の世帯数と人口の推移

(単位：人)

年 度	世 帯 数	人 口 総 数	摘 要
明治 25年		4, 181人	明治36. 12. 31 人口
27年		4, 217人	下 浦 村 3, 173人
29年		4, 200人	青 江 村 2, 809人
31年		4, 263人	津 組 村 5, 248人
36年		4, 297人	日 代 村 2, 705人
41年		4, 421人	四 浦 村 4, 297人
大正 2年		4, 703人	保 戸 島 村 1, 786人
7年		4, 750人	
9年	731人	3, 785人	第1回国勢調査
14年	710人	3, 938人	
昭和 5年	703人	4, 252人	
10年	689人	3, 979人	
15年	675人	3, 800人	
22年		4, 596人	
23年	807人	4, 625人	
25年	769人	4, 523人	昭和25. 10. 1 人口
			津久見町 23, 116人
			日 代 村 3, 648人
			四 浦 村 4, 523人
			保 戸 島 村 2, 882人
26年			津久見市制施行
			津久見町・日代町・四浦村
			保戸島村合併
45年	617人	2, 538人	
50年	586人	2, 161人	
60年	534人	1, 609人	
平成 4年	508人	1, 281人	
5年	500人	1, 234人	
8年	490人	1, 131人	
13年	465人	989人	
14年	453人	958人	
15年	444人	936人	
16年	438人	902人	
17年	430人	892人	
22年	419人	803人	男356人・女447人

(『津久見市統計書』『大分県統計書』により作成。)



第二表は、昭和二十四年末の一般・復員別引揚者定着数を示したものである。

地域は朝鮮半島・旧満州・千島・樺太・シベリアほかソ連領・中国・台湾・南方各地から広範囲にわたっている。

昭和二十五年五月までは大体引揚げは完了しており、戦後の復員状況が九四・三%は終了したことを、厚生省は発表している。

(二) 人口分布

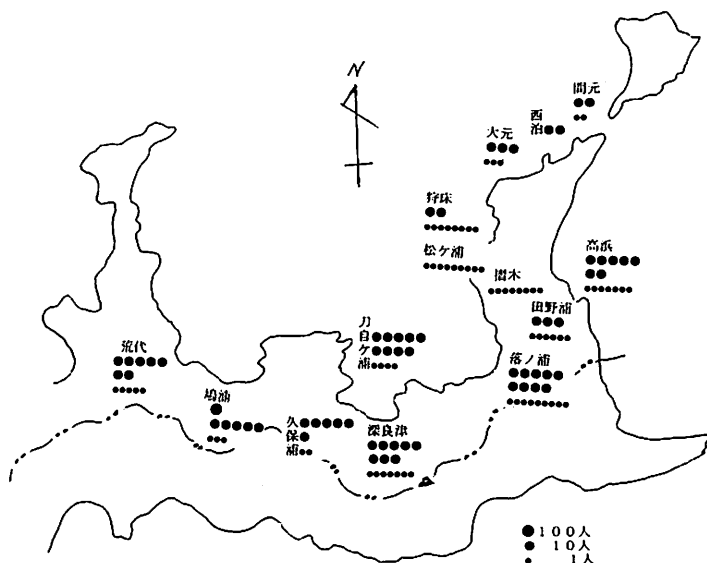
落ノ浦以東 四浦地区に多い人口 の人口分布を見ると、第二図のとおりである。

四浦地区の東端部に位置

第二表 一般・復員別引揚者定着数 (昭和24年末)

町村別	一般 居留民			復 員 者		
	男	女	計	陸軍	海軍	計
津久見町	1, 110	309	1, 419	683	595	1, 278
日代村	146	141	287	138	22	160
四浦村	110	112	222	201	21	222
保戸島村	76	94	170	153	63	216

『大分県統計年鑑』(昭和25年)による。



第二図 人口分布  
 (『住民記録台帳』平成22年12月31日より作成)

第三表 四浦の地区別世帯数と人口  
 (単位: 世帯 人)

区 名	世帯数	人 口		
		総 数	男	女
荒 代	41	75	34	41
鳩 浦	71	153	61	92
刀自ヶ浦	44	94	45	49
久 保 浦	39	62	27	35
深 良 津	31	87	45	42
落ノ浦	61	99	44	55
田ノ浦	16	36	18	18
摺 木	6	8	5	3
松ヶ浦	7	9	3	6
狩 床	16	28	9	19
大 元	15	33	16	17
西 泊	10	20	8	12
間 元	14	22	10	12
高 浜	48	77	31	46
四浦 計	419	803	356	447

(平成22年12月31日)

住民記録台帳による。津久見市提供)

する鳩浦が尤も人口が多いが、地区全体から見ると、落ノ浦以東の地域に人口が集中しているといえよう。また、東部に位置する高浜にやや人口が多く分布している。

四浦地区の集落別の世帯数と人口を詳細に示したものが第三表である。

第三表で明らかのように、四浦半島の東部半分、すなわち田ノ浦、摺木、松ヶ浦、狩床、大元、西泊、間元の集落は世帯数、人口ともに少ない小集落の地域であることが分かる。

(三) 人口構成

多い女子 平成二十二年  
人口 年(一九一

○)の津久見市の住民記録台帳によると、四浦地区の男子は三六五人、女子は四七人で、女子は男子に比べて九一人も多い。人口の性は女子一〇〇に対し、男子七九・六でかなり低いことが分かる。

また、四浦地区の年齢別人口をみると、第四表のとおりである。

すなわち、平成二十二年

第四表 年齢別人口 (四浦地区)

(単位：人)

区分 年	年少人口	生産年齢人口	老年人口
	0才～14才	15才～64才	65才以上
平成22年	34人	340人	429人
(割合)	4.2%	42.3%	53.5%

(津久見市提供資料による。)

第五表 年齢階層別人口構成 (四浦地区)

(単位：人)

年齢	男	女
0～4	1	9
5～9	5	5
10～14	9	5
15～19	12	11
20～24	10	5
25～29	8	12
30～34	7	11
35～39	18	6
40～44	13	8
45～49	19	17
50～54	16	12
55～59	35	31
60～64	50	29
65～69	26	37
70～74	31	51
75～79	40	66
80～84	26	69
85～89	18	45
90～94	6	8
95～99	1	5
100以上	0	0

(津久見市提供資料による。平成22年度)

(四) 人口動態

人口の自然的 四浦地区の平成十五年、十七年、二十二年の出生・死亡の状況をみると、第六表のとおりである。

の状況では、六十五歳以上の老年人口が四二九人で、総人口の五十三・四%を占めて著しく多い。さらに年齢別の状況を詳細にみると、第五表のとおりである。

第六表 人口の自然的動態

(四浦地区 単位：人)

区分 年	出生	死亡
平成15年	2人	16人
平成17年	3人	11人
平成22年	3人	23人

(津久見市提供資料による)

すなわち、出生数は各年度とも二人から三人と非常に少なく、それに対して死亡数は平成十五年十六人、十七年十一人、二十二年度は二十三人と多い事が分かる。死亡者が多いのは、四浦地区が六十五歳以上の高齢者が著しく多いからである。

第七表 人口の社会的動態 (四浦地区)

(単位：人)

区分 年	社会的動態	
	転入	転出
平成15年	21人	30人
平成17年	23人	25人
平成22年	10人	19人

(転出については四浦地区から市外へ四浦地区から津久見市内の他の地区へ的人数を含む。津久見市提供資料による。)

人口の社会的動態

四浦地区の転入・転出をみると、第七表に示すとおりである。注目されるのは、四浦地区からの転出が転入よりも多いことである。

この事は過疎化が進行している同地区で、さらに過疎に拍車をかけている深刻な状態を物語っている。